

2018年9月5日

**フラッグシップモデル「AVENTAGE セパレートシリーズ」の
 11.2ch AV プリアンプと 11ch パワーアンプを新発売**

AVENTAGE

ヤマハ AV プリアンプ 『CX-A5200』

ヤマハ パワーアンプ 『MX-A5200』

ヤマハ株式会社は、プリアンプとパワーアンプを独立させたセパレート構成の採用により、ホームシアター再生の理想を追求したフラッグシップモデル「AVENTAGE セパレートシリーズ」の新製品として、11.2ch AV プリアンプ『CX-A5200』を10月下旬より、11ch パワーアンプ『MX-A5200』を12月中旬より、それぞれ全国で発売いたします。

<価格と発売時期>

品名	モデル名	色	本体価格	当初月産 予定台数	発売時期
AVプリアンプ	CX-A5200	(H)チタン、(B)ブラック	300,000円(税抜)	1,400台	10月下旬
パワーアンプ	MX-A5200	(H)チタン、(B)ブラック	320,000円(税抜)	800台	12月中旬

<製品の概要>

今回発売する 11.2ch AV プリアンプ『CX-A5200』、11ch パワーアンプ『MX-A5200』は、当社が培ってきた独自のオーディオ技術と音場創生技術とを集大成したフラッグシップモデル「AVENTAGE セパレートシリーズ」の新製品です。『CX-A5200』は 2015 年発売の CX-A5100 をベースに、最適な音場効果をリアルタイムに創出する革新的サラウンド体験「SURROUND:AI」や 2 基の ESS 社製 D/A コンバーター「ES9026PRO」の搭載など、パフォーマンスと使用感覚の両面を最新の技術・デバイスによってアップデートしました。また 2013 年発売の MX-A5000 以来、約 5 年ぶりのモデルチェンジとなる『MX-A5200』は、多彩なスピーカーアサインを可能にするチャンネルセレクターに加えて、新たに BRIDGE 出力モードも装備するなど、システム構成の自由度をいっそう高めています。そしてもちろん、両機種とも筐体や電源部、内部ワイヤリング、プリント基板パターンといったオーディオ機器としての基本骨格を大胆に刷新し、想像を超えるほどの音の深みと迫力を再現。2020 年代におけるホームシアター再生のベンチマークとなることを目指し、セパレート構成でなければ到達し得ない圧倒的な音と臨場感、そして発展性をここに獲得しました。



【CX-A5200 主な特長】

1. 音質設計

・ESS 社製「ES9026PRO」×2 基、独自の D.O.P.G.コンセプトを採用したオーディオセクション

最新の ESS 社製 32bit D/A コンバーター「ES9026PRO」を 11.2ch 用として 2 基搭載し、全チャンネルの音色統一を徹底させました。入力部と D/A コンバーター部との電位差を解消する独自の D.O.P.G. (DAC on Pure Ground) コンセプトが「ES9026PRO」の潜在能力を余すことなく引き出し、比類なき高 S/N に裏付けられた静寂性と克明なディテール表現力、そして大音量時における忠実なダイナミクスを描き出します。さらに、音質的な方向性や入力信号の精度に応じて、3 種類のデジタルフィルター特性(シャープロールオフ/スローロールオフ/ショートレイテンシー)と、ウルトラロージッター PLL 回路による 3 段階のジッター除去特性の組み合わせを選択でき、サウンドを自分好みにカスタマイズすることも可能です。



ESS社製ハイグレード32bit DAC×2基

・1.6mm 厚ボトムカバーを新たに装備した制振・高剛性シャーシ

H 型クロスフレーム&ダブルボトム構造で理想の機械的強度を発揮する制振・高剛性シャーシ、設置安定性を高めて筐体の共振を効果的に分散する<5番目の脚>など、当社がこれまで積み上げてきた独自の筐体設計技術を集約。本体底面のボトムカバーには新たに 1.6mm 鋼板(CX-A5100 比で厚み 0.8mm 増、質量 1.0kg 増)を採用し、3 次元サラウンド再生のリアリティに欠かせないローエンドの音の再現性もいっそう向上させました。さらにボディ両サイドには、デザイン性を高め、筐体全体の制振にも貢献する肉厚のアルミサイドパネルを装着しています。



アルミサイドパネル採用



アンチレゾナンステクノロジーによる<5番目の脚>

・オーディオ回路専用の大容量電源トランスを搭載した 4 回路分離パワーサプライ

オーディオ回路、デジタル回路、アナログ映像回路、FL ディスプレイ回路のそれぞれに専用電源を割り当てて全動作モードでの S/N を大幅に向上させた 4 回路分離パワーサプライを採用。オーディオ回路専用の電源トランスを大容量化(CX-5100 比 100%増)することで D/A コンバーターのポテンシャルを最大限に発揮させ、パワフルで深みのあるサウンドに貢献しています。さらに、試聴を重ねて材質と厚みを決定した 3mm 厚の真ちゅう製ベースプレートにトランス底面に装着するなど、人の声や楽器の音色を忠実に再現することを求めたオーディオライクな音質チューニングも実施しました。



シールドカバー一体型電源トランス

・MX-A5200 や外部プレーヤーとのバランス接続を実現するバランス入出力端子

サブウーファー用の 0.2ch 出力を含む 11.2ch すべてのプリアウトには、通常 RCA コンポジット(アンバランス)音声出力端子に加えて、XLR バランス音声出力端子を装備。11ch パワーアンプ『MX-A5200』をはじめとするバランス入力端子付きパワーアンプやアクティブサブウーファーとの組み合わせで、外部ノイズの影響を受けにくい高品位な信号伝送を実現します。さらに当社製 CD プレーヤー「CD-S3000」「CD-S2100」など、バランス音声出力を備えた再生機器との高音質接続に対応する XLR バランス入力端子も装備。すべてのバランス入出力端子には、当社の業務用ミキシングコンソールでも実績を積んだノイトリック(NEUTRIK)社製の金メッキ仕様 XLR 端子を採用しています。



ノイトリック社製金メッキ仕様 XLR 端子

2. 音場創生・音場補正

・最大 11.2ch スピーカー構成に対応する革新的サラウンド体験「SURROUND:AI」

最大 11.2ch スピーカー構成に対応し、視聴するコンテンツのシーンに応じた音場効果を自動的に創出する革新的サラウンド体験「SURROUND:AI」を新たに搭載しました。視聴中のコンテンツに含まれるセリフやBGM、環境音、効果音などの音の要素に注目して AI(人工知能)がシーンの種類を自動的に分析し、視聴するコンテンツのシーンごとに最適な音場効果をリアルタイムで創出します。これにより、常に理想的な音場効果でコンテンツへの没入感を最大化することが可能となりました。さらに「SURROUND:AI」は、Dolby Atmos[®]または DTS:X[™]の 3次元サラウンドフォーマットとの掛け合わせ再生にも対応しています。

SURROUND: 



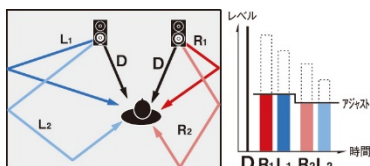
「SURROUND:AI」イメージ図

・64bit ハイプレジョン EQ などにより調整精度を極めた YPAO

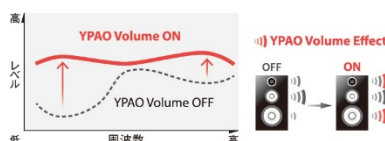
YPAO 

64bit 演算によりイコライジング処理を高精度化した 64bit ハイプレジョン EQ などにより、補正時における音質への影響を最小限に留めた最高グレードの視聴環境最適化システム「YPAO」(Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer)を搭載しました。部屋固有の初期反射音を積極的に制御して視聴環境を最適化する「YPAO-R.S.C.*」、その計測結果に基づき再生時の周波数特性が音量に応じて聴感上フラットになるようにコントロールする「YPAO Volume」、各スピーカーの距離と方向、プレゼンスピーカーの高さを自動計測することで音場空間を立体的に補正する「YPAO 3D 測定」を含む総合的な測定・補正プロセスによって、ハイトスピーカーの位置や仕様、室内環境によってサラウンド効果が影響を受けやすい 3次元サラウンド再生の課題を克服。音の質的变化を最小限に抑えながら、より明確な視聴環境改善効果をもたらします。

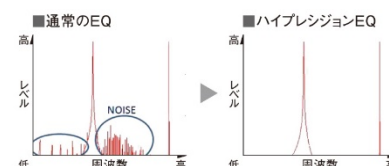
* : R.S.C.= Reflected Sound Control



「YPAO-R.S.C.」の動作イメージ(概念図)



「YPAO Volume」の効果(概念図)



ハイプレジョンEQの効果(概念図)

3. ネットワーク関連

・DSD 11.2MHz ダイレクト、AIFF/WAV 384kHz/32bit ダイレクトをサポートするハイレゾ再生

ジッターノイズの発生を大幅に低減してハイレゾ音源特有のデリケートな音の違いも忠実に描き分けるヤマハオリジナル・ネットワークモジュールを搭載したネットワークオーディオ部は、DSD 11.2MHz ダイレクト、AIFF/WAV 384kHz/32bit ダイレクト*、FLAC 384kHz/24bit ダイレクト、Apple Lossless 96kHz/24bit 再生をサポートします。内蔵 Wi-Fi は 2.4GHz 帯に加えて 5GHz 帯にも対応したデュアルバンド方式で、いっそう快適なワイヤレス音楽再生を実現しました。

* : 32bit float ファイルには非対応。

・Deezer HiFi、Spotify、radiko.jp に対応

約 3,600 万曲を CD 相当 (FLAC 44.1kHz/16bit) の高音質でストリーミング聴取できる高品位音楽配信サービス「Deezer HiFi*1」(ディーザー ハイファイ)をはじめ、音楽配信サービス「Spotify」(スポティファイ)、IP サイマルラジオ配信サービス「radiko.jp*2」に対応。このうち、「Spotify」のストリーミング聴取は「Spotify Connect*3」(スポティファイ コネクト)機能を利用すればいっそう便利に楽しめます。

*1: Deezer HiFi は月額制の有料サービスで、利用には別途契約が必要です。また本機で Deezer HiFi を聴取するには、ヤマハが提供する操作アプリ「MusicCast CONTROLLER」(無償)のインストールが必要です。

*2: radiko.jp (無料のエリア内聴取)と radiko.jp プレミアム(有料のエリアフリー聴取)に対応。使用には「MusicCast CONTROLLER」アプリのインストール、およびプレミアム会員登録(radiko.jp プレミアム利用時のみ)が必要です。

*3: Spotify Connect の利用には、Spotify アプリ(無料)のインストールと Spotify Premium アカウント(有料)への登録が必要です。







4. 映像関連

・HDR、BT.2020、HDCP2.2、4K/60pパススルー & 4Kアップスケーリングに対応した7入力/3出力のHDMI端子

HDR 映像伝送や BT.2020 映像伝送、HDCP2.2、4K/60p 4:4:4 映像信号のパススルー/4K アップスケーリングに対応した7 入力/3 出力*1の HDMI 端子を装備しました。広範な色域と大きく拡張されたダイナミックレンジによって華やかな色彩や豊かなディテールを再現する高画質技術「Dolby Vision™」、放送局が推奨する HDR 方式「Hybrid Log-Gamma」、これまでのオーディオリターンチャンネル (ARC) 機能に加えてロスレス音声やオブジェクトオーディオも伝送可能とした eARC*2にも対応し、Ultra HD Blu-ray プレーヤーなど複数の対応機器を接続して画質を損なうことなく楽しめます。



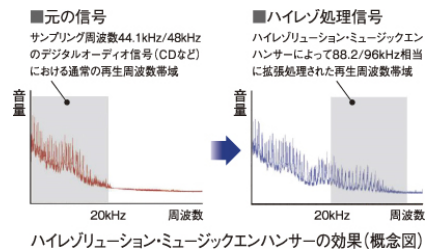
*1:うち 1 出力 (HDMI OUT3) はゾーン 2/4 専用出力です。この出力系統は 4K アップスケーリングに対応しておりません。

*2:eARC=テレビと本機とを 1 本の HDMI ケーブルで接続し、テレビに入力されたロスレス音声やオブジェクトオーディオを含むテレビ側音声の本機へ伝送できる機能。(ファームウェア更新により対応予定)

5. ユーティリティ機能

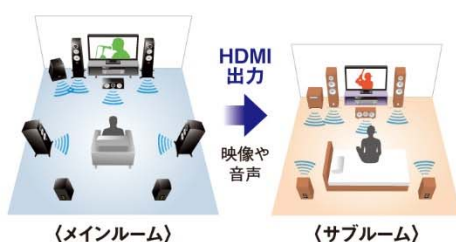
・聴きなれたオーディオソースに新たな魅力を与えるハイレゾリューションミュージックエンハンサー

2ch ステレオの非圧縮 (CD、WAV、AIFF) および可逆圧縮 (FLAC、Apple Lossless) 音声を最大 96kHz/24bit 分解能まで拡張処理するハイレゾリューション・ミュージックエンハンサーを搭載しました。ナチュラルな音質改善効果を目指した独自のアルゴリズムにより、CD などの聴き慣れたオーディオソースに新たな魅力を与えます。



・別室で映画の続きを観たり、お好みのオーディオソースが聴ける HDMI 対応アドバンスドゾーンスイッチング

メインルームと同じ、または別のソースを選んで別室の HDMI 対応テレビやホームシアターに HDMI 伝送できるほか、HDMI 入力以外のオーディオソース (デジタル/アナログ音声、ネットワーク音声、FM/AM ラジオ) も別室に伝送して聴くことができるアドバンスドゾーンスイッチングを装備。メインルームから寝室やキッチンなどに移動して映画の続きを観賞するときや、メインルームとは異なる映像ソース/オーディオソースを選んで楽しみたいときに便利です。各ゾーンの切り換えは本体またはリモコンのボタン、専用アプリ「AV CONTROLLER」で操作できます。さらにゾーン 2/3 については、メインルームで聴いているソースと同じものを常に再生する「Main Zone Sync」入力にも対応。たとえばキッチンなどのサブルーム側で入力切り替え操作をすることなく、ルーム間でのコンテンツ共有が可能になりました。



お好きなHDMIソースを選べます (ゾーン4)

サブルームではメインルームと異なる、または同じHDMIソースを選択できます。異なるソースはマルチch音声の伝送が可能、同じソースはステレオ音声となります。

異なるソース: マルチch (DSD) ↔ 同じソース: ステレオ

*DSD音声を除く

お好きなオーディオソースも選べます (ゾーン2)

HDMI入力されたソースに加えて、さまざまなタイプのオーディオソースもステレオ音声で楽しめます。

HDMI入力以外のソース: [選択可能なオーディオソース]

- デジタルPCM (光・同軸) オーディオ、アナログオーディオ、ネットワークオーディオ、USBオーディオ、インターネットラジオ、内蔵FM/AMラジオ

6. 5年間の長期製品保証

長期間にわたり安心してご愛用いただけるよう、お買い上げ日より5年間のメーカー製品保証を標準で付与しています。

【その他の特長】 ●高さ方向を含む空間情報の完全再現を目指す3次元立体音場創生の最高峰、シネマDSP HD³ ●3次元サラウンドフォーマット、Dolby Atmos[®] & DTS:X[™]を搭載 (SURROUND:AI、およびシネマDSP HD³との掛け合わせ再生に対応) ●専用操作アプリ「AV CONTROLLER」対応 ●MusicCast[®]対応 ●40局プリセット対応ワイドFM/AMチューナー ●MM対応フォノイコライザー ●AAC対応Bluetooth[®] オーディオ機能 ●サラウンド再生がお手持ちのヘッドホンで楽しめるサイレントシネマ ●音声信号経路を最短化して入力ソースの音をありのままに再現するピュアダイレクトモード ●別室で映画の続きを観たり、お好みのオーディオソースが聴けるHDMI対応アドバンスドゾーンスイッチング ●HDMIコントロール/スタンバイスルーオフ、ネットワークスタンバイオフ時の待機時消費電力0.1W以内の省電力設計 ●HDフォント & アイコンを採用した多言語対応OSD (オンスクリーン・ディスプレイ) ●一定時間使用しないと自動的に電源がオフになり、電源の切り忘れを防止するオートスタンバイ (20分/2/4/8/12時間に設定可能) ●直感的な操作を実現する新デザインのバックライト付きワイヤレスリモコンを付属

【MX-A5200 主な特長】

1. 音質設計

・定格 230W/ch、全チャンネル同一出力の 11ch パワーアンプ

ワイドレンジで高スルーレート、NFB や位相補償を最小限に抑えた音質最優先の3段ダーリントン出力段・電流帰還型パワーアンプ回路を採用し、全チャンネルを定格 230W/ch (6Ω) の同一出力・同一仕様で揃えた、4Ω ローインピーダンス駆動対応の11ch パワーアンプを搭載。左チャンネル系と右チャンネル系のパワーアンプブロックを左右対称に配置したシンメトリーな内部レイアウトによってチャンネルセパレーションを最大化し、単体パワーアンプでなければ体験できない音の空気感をもたらします。11.2ch をひとつの空間として描き切る圧倒的な力感と静けさで、3次元サラウンドの臨場感も余すことなく再現します。



・2.0mm 厚ボトムカバーを新たに装着した制振・高剛性シャーシ

厚さ 1.6mm の鋼板を使用したサブシャーシと H 型メインフレーム、そして外周部を巡るアウターフレームの 3 要素を強固に結合し、外板に依存することなく完全な機械的強度が得られる H 型リジッドフレーム構造を採用しました。本体底面のボトムカバーは新たに 2.0mm 厚鋼板 (MX-A5000 比で厚み 1.0mm 増、質量 1.0kg 増) を採用し、設置安定性を高めて筐体の共振を効果的に分散する<5番目の脚>とも相まって、さらなる低重心化と低共振化を達成。ローエンドへ向けて深々と沈み込む、壮大なスケールのサウンドを実現しました。またボディ両サイドに装着したアルミ押し出し材サイドパネルも、デザイン性を高めるとともに筐体の共振抑制に貢献しています。



H型リジッドフレーム

・給電ワイヤリングの大径化により電源部の低インピーダンス化を徹底

専用設計の大型トイダルトランスと 27,000 μ F \times 2 の大容量ブロックケミコンを搭載した電源部の給電ワイヤリングには、新たに 14 ゲージ相当の大径ケーブルを採用。内部インピーダンスを約 30~50%低減して素早い電力供給を実現し、スピーカー駆動力とレスポンスを大幅に向上させました。



大型トイダルトランス

27000 μ F大容量ブロックケミコン

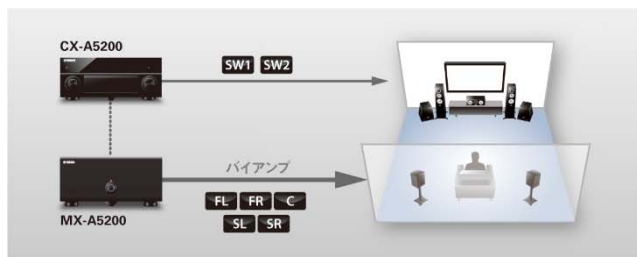
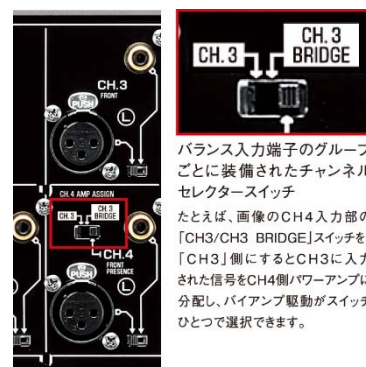
2. 接続・拡張性

・バランス接続対応 11ch 音声入力端子

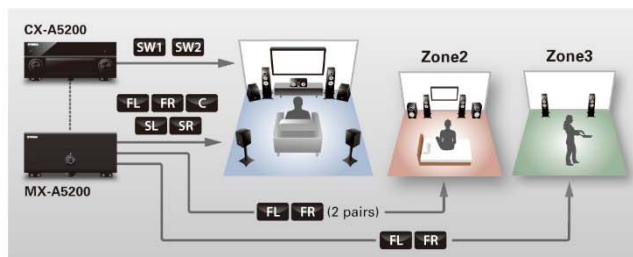
音声入力は RCA コンポジット(アンバランス)端子に加え、XLR 端子によるバランス入力にも対応。『CX-A5200』をはじめとするバランス出力端子付きプリアンプとの組み合わせで外来ノイズに強い音声伝送を実現するほか、音声信号のコールド側と筐体グラウンドとを入力基板の段階で完全分離した新グラウンドセンシング方式を採用し、『CX-A5200』とのアンバランス接続におけるノイズレベルをさらに改善しました。また、当社の業務用ミキシングコンソールでも実績を積んだノイトリック製の金メッキ仕様 XLR 端子をすべてのバランス入出力端子に採用したほか、11ch すべてのスピーカー出力端子には Y ラグ端子にもバナナプラグにも対応する真鍮削り出しの金メッキ・スクリュー式ターミナルを採用しています。

・多彩なスピーカーアサインを可能にするチャンネルセクター

11 の入力系統を隣接する 5 グループに分け、各端子脇のセクタースイッチを使ってグループ内の他の入力系統に信号を分配することができます。たとえば 5ch 分のスピーカーをすべてバイアンプ駆動にしたり(下図「接続例 1」)、センタースピーカーを最大 3 台並べて使用したり、11ch パワーアンプならではの多彩なスピーカーアサインを明快なスイッチ操作で実現。5.1ch スピーカー構成で使用する場合にも本機の能力を無駄なく活かすことができます。さらに、使用しないチャンネルのパワーアンプをサブルーム用に割り当てて寝室やキッチンに置いたスピーカーを駆動することも可能です。(下図「接続例 2」)。



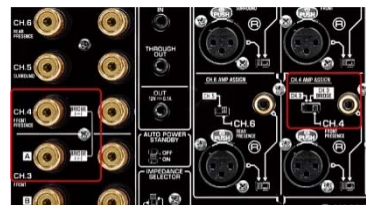
接続例1<5ch/バイアンプ接続>



接続例2<マルチゾーン接続>

・システム構築の自由度を高める BRIDGE 出力モードに対応

内蔵パワーアンプ 11ch のうちの 4ch (2ch×2) については、2ch 分のパワーアンプ回路を BRIDGE 接続してひとつのスピーカーを駆動することで、より高い駆動力とダイナミックなサウンドが得られる BRIDGE 出力モードに対応。BRIDGE 接続された 4ch 分をメイン 2ch 分に割り当てるなど、5.1ch~9.2ch スピーカー構成時におけるシステム構築の自由度がいっそう高まります。



3. 5年間の長期製品保証

長期間にわたり安心してご愛用いただけるよう、お買い上げ日より5年間のメーカー製品保証を標準で付与しています。

【その他の特長】 ●ユニークなタッチ操作によりイルミネーションの減光ができる本体中央の大型パワースイッチ ●『CX-A5200』などの AV プリアンプや当社製パワードサブウーファーとの電源連動が可能なトリガー入出力端子 ●前面スピーカー A/B 切り換えスイッチ(CH2 L/R 入力に対応) ●電源の切り忘れを防止するオートスタンバイ(トリガー出力端子連動)

【製品の販売について】

『MX-A5200』の予約受付は2018年10月24日(水)より開始する予定です。実際の予約受付開始日につきましては、各販売店により決定されます。

【体験視聴会について】

『CX-A5200』『MX-A5200』の発売に先駆けて、来る9月29日(土)に東京で、10月6日(土)に名古屋で、10月13日(土)に大阪で、両新製品の先行視聴会を開催いたします。会場などに関する詳細やご応募の方法につきましては下記ウェブサイトでご確認ください。

https://jp.yamaha.com/products/contents/audio_visual/cx_mx_2018/

<CX-A5200 主な仕様>

型番		CX-A5200	
HDMI 入力		7 (HDCP2.2 に対応)	
HDMI 出力		3 (HDCP2.2 に対応、同時出力可、HDMI OUT 3 端子は ZONE OUT 専用)	
音声入力	アナログ	11 系統	2ch RCA アンバランス 9 (前面入力1、PHONO1含む)、XLR バランス 1 (1:アース、2:HOT、3:COLD) マルチチャンネル 1 (8ch)
	デジタル	6 系統	光 3 同軸 3
音声入力(その他)		2 系統	USB ^{※1} 1 (前面入力 1)、Ethernet 1
映像入力		6 系統	コンポジット 4 コンポーネントビデオ 2
音声出力	PRE OUT	RCA アンバランス	11.2ch : フロント L/R、センター、サラウンド L/R、サラウンドバック L/R、フロントプレゼンス L/R、リアプレゼンス L/R サブウーファー OUT 2、(STEREO、FRONT&REAR、MONO×2)
		XLR バランス	11.2ch : フロント L/R、センター、サラウンド L/R、サラウンドバック L/R、フロントプレゼンス L/R、リアプレゼンス L/R 1:アース、2:HOT、3:COLD
	ZONE OUT		ZONE 2、ZONE 3
	ヘッドホン出力		1
その他の端子	トリガー端子		2
	リモート端子(入力/出力)		1/1
	RS-232C 端子		1
HDMI パススルー		4K/60p 4:4:4、BT.2020、HDR (HDR10、Dolby Vision TM 、Hybrid Log-Gamma) 伝送	
HDMI その他		4K アップスケーリング対応、アップコンバージョン対応	
シネマ DSP プログラム数		34	
消費電力		65W	
待機時消費電力		0.1W (HDMI コントロール OFF/スタンバイスルーOFF/ネットワークスタンバイ OFF 時)	
		2.5W (HDMI コントロール ON/スタンバイスルーON/ネットワークスタンバイ ON 時)	
寸法(幅×高さ×奥行)		435W×193H×474D mm (Wi-Fi アンテナ直立時:435W×270H×474D mm)	
質量		15.2kg	
付属品		リモコン、単 4 乾電池 (2 本)、AM アンテナ、FM アンテナ、YPAO 用マイク、YPAO 3D 測定用マイクベース/ポール、電源コード(極太 OFC タイプ)、取扱説明書、スタートアップガイド	

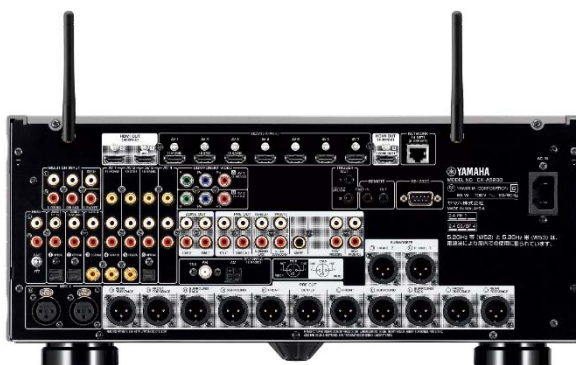
※1:USB メモリー内ファイルの音声再生用。USB DAC としての機能はありません。

<MX-A5200 主な仕様>

型番	MX-A5200	
定格出力	20Hz-20kHz、2ch 駆動	170W/ch (6Ω、0.06%THD)
	20Hz-20kHz、2ch 駆動	150W/ch (8Ω、0.06%THD)
	1kHz、1ch 駆動	230W/ch (6Ω、0.9%THD)
	20Hz-20kHz、2ch BRIDGE 接続駆動	200W/ch (8Ω、0.06%THD)
	20Hz-20kHz、2ch BRIDGE 接続駆動	240W/ch (8Ω、0.9%THD)
実用最大出力	1kHz、1ch 駆動	280W/ch (6Ω、10%THD)
内蔵パワーアンプ数	11	
音声出力	スピーカー出力	11ch 13 端子 (Ch1(1ch)、Ch2 L/R、Ch3 L/R(A)、Ch3 L/R(B)、Ch4 L/R、Ch5 L/R、Ch6 L/R)
音声入力端子	RCAアンバランス 11、XLRバランス 11 (1:アース、2:HOT、3:COLD)	
トリガー端子	出力1、入力1、スルーアウト1	
消費電力	650W	
待機時消費電力	0.1W	
寸法(幅×高さ×奥行)	435W×211H×463.5Dmm	
質量	26.4kg	
付属品	電源コード、システム接続ケーブル、取扱説明書	



ヤマハ AV プリアンプ『CX-A5200』 カラー:(H)チタン、(B)ブラック
 本体価格 300,000 円(税抜)



【製品情報】 https://jp.yamaha.com/products/audio_visual/av_receivers_amps/cx-a5200/index.html



ヤマハ パワーアンプ『MX-A5200』 カラー:(H)チタン、(B)ブラック

本体価格 320,000 円(税抜)



【製品情報】https://jp.yamaha.com/products/audio_visual/av_receivers_amps/mx-a5200/index.html

※文中の商品名、社名等は当社や各社の商標または登録商標です。

<この件に関するお問い合わせ先>

■報道関係の方のお問い合わせ先

ヤマハ株式会社 コーポレート・コミュニケーション部 メディアリレーショングループ
担当:佐藤、千葉

〒108-8568 東京都港区高輪 2-17-11

TEL 03-5488-6605

ウェブサイト https://www.yamaha.com/ja/news_release/
(取材申し込みや画像ダウンロードが可能です。)

■一般の方のお問い合わせ先

株式会社ヤマハミュージックジャパン カスタマーサポート部
お客様コミュニケーションセンター オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町 10-1

TEL 0570-011-808 (ナビダイヤル:全国どこからでも市内通話料金)

TEL 053-460-3409 (上記番号でつながらない場合)